

Live Love Animals CAC KOBE 2015

りぶ・らぶ・あにまらず ICAC KOBE 2015

開催報告書

～阪神・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ～
第4回 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 2015
— 阪神・淡路大震災 20年記念大会 One World, One Life —



阪神・淡路大震災の経験を 人と動物の幸せな未来へ



開催日

2015年7/19(日)・20(月・祝)

開催場所

神戸大学統合研究拠点 (国際会議)
神戸ポートピアホテル (レセプション)

OUTLINE

ICAC KOBE 2015 概要

- **会議の名称**

りぶ・らぶ・あにまるず ICAC KOBE 2015
第4回神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 2015
— 阪神・淡路大震災 20年記念大会 One World, One Life —
Live Love Animals ICAC KOBE 2015
The 4th Kobe International Conference on the Care for All Creatures 2015 Commemorating 20 Years Since the Great Hanshin-Awaji Earthquake — One World, One Life
- **開催日**

2015年7月19日（日）／20日（月）【2日間】
- **開催場所**

神戸大学統合研究拠点（国際会議・受講無料）
神戸ポートピアホテル（レセプション・会費制にて実施）
- **開催の目的**

この会議は、阪神・淡路大震災 15周年を契機に、全ての動物を対象とし、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論することにより、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的とする。
- **開催趣旨**

— One World, One Life —
お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である。
阪神・淡路大震災から20年経ちます。大きな災害は、ごく普通の日常が、どんなに脆く、大切に、守らねばならないものかを教えてくれました。それは、どんな生き物にとっても同じでした。
また、生き物の暮らしを襲う危機は、大きな災害だけではなく、老いや疾病、事故や戦争、貧困と、様々な要因で私達を襲います。それに対し、社会は、高度な専門性を以て、対処してきました。
世界はグローバル化し、地球は小さくなりました。私達は、今や世界との繋がりに、自分達の生活を考えることは出来ません。そして今、様々な課題解決の為に、分野を越えた連携も広く求められています。
生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に出来ることを幅広く議論する場を提供し、「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」 — One World, One Life — 概念構築の第一歩と致します。
- **会議アドバイザー**

（順不同）

【ヒト医療識者】 竹内 勤氏
（慶應義塾大学 名誉教授／慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 客員上席研究員）

【理学系識者】 松沢 哲郎氏
（京都大学 霊長類研究所 教授／公益財団法人 日本モンキーセンター 所長）

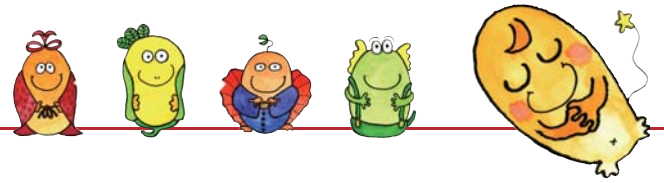
【文系識者】 奥野 卓司氏
（関西学院大学 総合図書館長・社会学部 教授／放送大学大学院客員教授／山階鳥類研究所 副所長）
- **主催**

ICAC KOBE 阪神・淡路大震災 20年記念大会 実行委員会
The ICAC KOBE Executive Committee for Commemorating 20 Years Since the Great Hanshin-Awaji Earthquake

【実行委員会構成団体】
神戸市／兵庫県動物愛護センター／公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類／公益社団法人 日本動物病院協会／公益社団法人 日本動物福祉協会／公益社団法人 Knots（事務局）

【事務局アドバイザー】（50音順）
植村興氏／柴内裕子氏／玉井公宏氏／笹井和美氏／山口千津子氏／山崎恵子氏
- **共催**

公益社団法人 日本医師会／近畿地区連合獣医師会／神戸市動物愛護協会



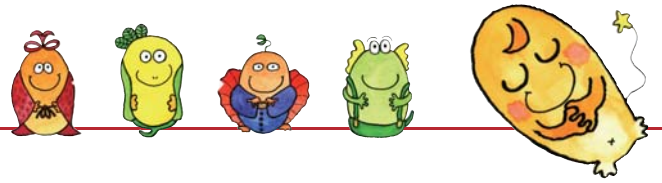
- **シンポジウム主催団体** 人と動物の共通感染症研究会／災害動物医療研究会／公益社団法人 日本動物病院協会
公益社団法人 Knots
- **セッション運営支援団体** 【オーラルセッション】 公益社団法人 日本獣医学会／日本野生動物医学会
【ポスターセッション】 公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類
- **特別協賛**  日本ヒルズ・コルゲート株式会社
- **シンポジウム支援企業** ロイヤルカナンジャパン
- **会議支援企業** アサヒグループホールディングス株式会社／六甲山カンツリーハウス
DS ファーマアニマルヘルス株式会社／ペットライン株式会社／au 損害保険株式会社
- **会議サポーター** 個人の会議サポーター
- **助 成** Meet in KOBE / 公益財団法人 中内力コンベンション振興財団
- **特別協力** 一般社団法人ペットフード協会／公益財団法人日本モンキーセンター／神戸大学大学院農学研究科
／長崎大学熱帯医学研究所／北海道大学大学院獣医学研究科／帯広畜産大学獣医学課程／岩手大学
農学部共同獣医学科／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻／東京農工大学農学部共同獣
医学科／岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科／鳥取大学農学部共同獣医学科／山口大学共同獣医
学部獣医学科／宮崎大学農学部獣医学科／鹿児島大学農学部 共同獣医学部獣医学科／酪農学園大学
獣医学群／北里大学獣医学部獣医学科／日本大学生物資源科学部獣医学科／麻布大学獣医学部／日
本獣医生命科学大学獣医学部／関西学院大学 災害復興制度研究所／同志社大学 良心学研究セン
ター、同 生命倫理ガバナンス研究センター
- **協 力** 日本寄生虫学会／日本衛生動物学会／日本熱帯医学会／国際医療リスクマネジメント学会／日本
予防医学リスクマネジメント学会／応用動物行動学会／ヒトと動物の関係学会／公益財団法人 動
物臨床医学研究所／一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム／兵庫県立人と自然の博物館／兵庫
県立コウノトリの郷公園／兵庫県森林動物研究センター／奈良県うだ・アニマルパーク振興室／公益
社団法人 日本動物園水族館協会／日本クマネットワーク／ニホンジカ有効活用研究会／一般社団
法人 エゾシカ協会／一般社団法人 日本 SPF 豚協会／一般社団法人 ちよだニャンとなる会／公益財
団法人 日本盲導犬協会／社会福祉法人 日本介助犬協会／特定非営利活動法人 兵庫介助犬協会／社
会福祉法人 兵庫盲導犬協会／社会福祉法人 日本聴導犬協会／特定非営利活動法人 聴導犬普及協会
／特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会／一般社団法人 日本障害者乗馬協会／動物との共生を
考える連絡会／アニマテック・オオシマ／一般社団法人 優良家庭犬普及協会／一般社団法人 日本
ペット用品工業会／日本動物病院会／一般社団法人 日本動物看護職協会／ペットとの共生推進協議
会／一般社団法人 人とペットの幸せ創造協会／一般社団法人 ジャパンケネルクラブ／一般財団法人
全国緊急災害時動物救援本部／日本獣医学生協会 (JAVS)
- **後 援** 農林水産省／環境省／厚生労働省／文部科学省／兵庫県／兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会
／神戸大学統合研究拠点／公益社団法人日本獣医師会／一般社団法人兵庫県医師会／一般社団法人 兵
庫県獣医師会／公益社団法人 神戸市獣医師会／一般社団法人 神戸市医師会／一般財団法人
J-HANBS / 公益財団法人 日本動物愛護協会／公益社団法人 日本愛玩動物協会
- **対 象** 各専門分野関連事業従事者／公衆衛生関係者／学生／一般
- **来場実績** 延べ 583 人 (2 日間／レセプション含む)

SESSION

開催セッション及び内容

基調シンポジウム及び分科シンポジウム

- **基調シンポジウム** 「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ — 護るべき大切な日常とは？」
座長：位田 隆一 氏（京都大学 名誉教授／同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 特別客員教授／同志社大学生命倫理ガバナンス研究センター長／公益財団法人 国際高等研究所 副所長）
演者：「ヒト・動物・自然の新たな公共性の模索 — 文化比較の視点から」
小原 克博 氏（同志社大学 神学部 教授／良心学研究センター センター長）
「家族愛の脳科学」
篠原 一之 氏（長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科神経機能学 教授／医学博士）
「常に変化し続ける生命の柔軟な営みに学ぶ」
森本 素子 氏（宮城大学 食産業学部 ファームビジネス学科教授／日本獣医師会動物福祉・適正管理対策委員会委員／宮城県動物愛護推進協議会副会長／獣医師）
- **シンポジウム 1** 「同行避難～これからの人と動物の緊急災害時」
座長：笹井 和美 氏（公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類 学類長 教授）
演者：「阪神大震災時の状況を踏まえた今後の取り組み」
杉原未規夫 氏（兵庫県動物愛護センター淡路支所）
「静岡県災害時における愛玩動物対策行動指針」について
寺井 克哉 氏（静岡県健康福祉部 生活衛生局 衛生課 動物愛護班）
「中越大震災時における同行避難動物への対応 — 避難所及び仮設住宅における受け入れについて」
遠山 潤 氏（新潟県動物愛護センター）
「大災害で問われる日頃のペットとの関係」
大西 一嘉 氏（神戸大学大学院工学研究科 建築・都市安全計画研究室 准教授）
「同行避難の必要性と実現に向かっての準備」
山口千津子 氏（公益社団法人 日本動物福祉協会）
- **シンポジウム 2** 「最近問題となった人と動物の共通感染症」
座長：吉田 博 氏（姫野病院 名誉院長）
演者：「エボラ出血熱 — リベリアにおける支援活動から学んだこと —」
加藤 康幸 氏（国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室長）
「70年ぶりの再興 ～デング熱国内流行とその対策～」
高崎 智彦 氏（国立感染症研究所 ウイルス第一部 第2室長）
「動物を守り、自分を守る；ダニ媒介感染症 SFTS の最新の研究から」
前田 健 氏（山口大学共同獣医学部 教授）
「最近問題となった動物由来感染症に対する厚生労働省の取組みについて」
宮川 昭二 氏（厚生労働省 結核感染症課 感染症情報管理室長）
- **シンポジウム 3** 「災害に強い日本型畜産の構築のために」
座長：大山 憲二 氏（神戸大学大学院 農学研究科附属 食資源教育研究センター 教授）
演者：「災害発生時の家畜の取扱について」
犬飼 史郎 氏（独立行政法人 家畜改良センター 改良部長）
「独立行政法人家畜改良センターにおける外部支援について」
吉奥 努 氏（独立行政法人 家畜改良センター 熊本牧場長）
「東日本大震災における配合飼料の供給について」
長谷川 敦 氏（協同組合日本飼料工業会 参事）
「災害時における地域内での協力体制について」
本田 義貴 氏（兵庫県農政環境部 農林水産局畜産課 衛生飼料班長）



● シンポジウム 4

「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム 一伴侶(家庭)動物との暮らしを地域活性へ」

座長：細井戸大成 氏（公益社団法人日本動物病院協会 会長）

モデレーター：富永佳与子 氏（公益社団法人 Knots 理事長）

演者：「我が国の高齢化の状況と介護保険制度の基本的方向」

懸上 忠寿 氏（厚生労働省関東信越厚生局 健康福祉部健康福祉課長）

「地域の活性化と動物病院の役割」

細井戸大成 氏（公益社団法人 日本動物病院協会）

「高齢ペット飼育者の意識調査」

西澤 亮治 氏（特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会 事務局長）

「超保険」を通じた人とペットの幸せな未来の実現に向けて

上杉 克 氏（東京海上日動火災保険株式会社）

「人とペットが共生するまちづくりを目指して」

森川 功一 氏（神戸市保健福祉局 生活衛生担当部長）

「ケアする社会へ —見守りから始まるコミュニティづくり—」

松原 一郎 氏（関西大学 社会学部 教授）

● シンポジウム 5

「日本の災害獣医療の今後を考える」

座長：佐伯 潤 氏（くずのは動物病院 院長／災害動物医療研究会 幹事／公益社団法人大阪府獣医師会 理事）

演者：「アメリカにおける災害獣医療について」

ジョン・マディガン氏（カリフォルニア大学デービス校 教授）

「日本の災害獣医療の方向性」

田中 亜紀氏（カリフォルニア大学デービス校）

オーラルセッション

● オーラルセッション1

「食の安全／人獣共通感染症」

座長：中山 裕之 氏（公益社団法人 日本獣医学会 理事長／東京大学 大学院農学生命科学研究科 獣医病理学研究室 教授）

演者：“Field-Validation of Minimum Application Intervals for Use of Raw Animal Manure as a Soil Amendment in the Central Valley, California”

Saharuetai Jeamsripong / Patricia D. Millner / Manan Sharma / Edward R. Atwill / Michele Jay-Russell

“Linkages between Pathogens and Cattle Fecal Loads and Microbial Water Quality in Aquatic Ecosystem in Sierra Nevada Meadows of California”

Anyarat Thiptara / Philip H. Kass / Kenneth W. Tate / Edward R. Atwill

“Risk of Rabies Exposure among the Foreign Backpackers and its impact on Tourism Industry in Thailand”

Priyakamon Khan / Naila Al Mahmuda / Md. Golam Abbas / Manirul Islam Khan

● オーラルセッション2

「One Plan Approach ～野生動物と共存していくための包括的な取り組み」

座長：高見 一利 氏（大阪市天王寺動物公園事務所 動物園担当課長代理／日本野生動物医学会 副会長／公益社団法人日本動物園水族館協会 生物多様性委員会国際保全事業部長）

演者：「コウノトリ野生復帰にみる人と自然の共生」

江崎 保男 氏（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科／県立コウノトリの郷公園）

「ツシマヤマネコの生息域外保全事業」

佐藤 哲也 氏（那須どうぶつ王国 園長／公益社団法人日本動物園水族館協会生物多様性委員会副委員長）

「知っていますか？ ゼニガタアザラシと漁業をめぐる問題」

藤井 啓 氏（プロジェクトとっかり 代表）

● オーラルセッション3 「教育／子ども達との関わり」

座長：天ヶ瀬 正博氏（国立大学法人 奈良女子大学 准教授）

演者：“Growing Together: Children, Animals and Sowing the Seeds of Resiliency”

Philip Tedeschi (Denver University, Founder and Exective Director of Institute for Human-Animal Connection and Graduate School of Social Work)

Miyako Kinoshita (Education Program Manager, Green Chimneys Farm and wildlife Center Sam and Myra Ross Institute at Green Chimneys)

“Managing Conflict through the process of Humane Education in Schools”

Pei F. Su (Founder & Executive Director of ACTAsia)

“Significance of rabies education program among the elementary school children of Bangladesh”

Md. Golam Abbas (Department of Molecular Neuroscience and Integrative Physiology, Kanazawa University, Kanazawa, Japan / Infectious Diseases Hospital, Dhaka, Bangladesh)

“Impact of stray dogs on Bangladesh economy”

Naila Al Mahmuda (School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Japan)

「奈良県うだ・アニマルパークの「いのちの教育」-小学生プログラムの評価-」

大森亜起子 氏（奈良県うだ・アニマルパーク振興室）

「日本人の琴線に触れる犬伝説 -弘法大師を高野山へ導いた白と黒」

中塚 圭子 氏（人とペットの共生環境研究所）

● オーラルセッション4 「その他」

座長：笹井 和美 氏（公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類 学類長・教授／国立大学法人 大阪大学大学院 工学研究科 招聘教授／公益社団法人 大阪府獣医師会 監事／農学博士・獣医師）

演者：「世界小動物獣医師会の活動：「グローバル疼痛ガイドライン」「ワンヘルス」

小関 隆 氏（世界小動物獣医師会アジア地区代表大使）

「日本流の人と犬との暮らし方」

中塚 圭子 氏（環境人間学博士人とペットの共生環境研究所）

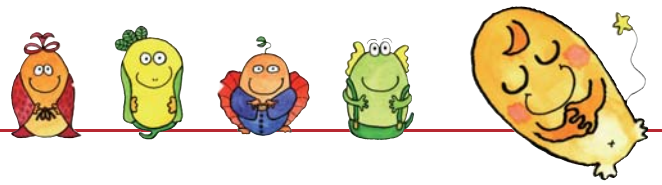
「ふるさとを守り未来につなぐ」警戒区域に残された牛の活用を通して畜産の復興につなげる研究提案

佐藤 衆介 氏（帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科／一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会）

2015年1月17日、1995年に発生した阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えました。この20年の間、地震災害以外にも、噴火、台風、土砂災害など、様々な自然災害が日本のみならず世界の各地で起こっています。また、グローバル化により、感染症は、瞬時に世界共通の問題となり、少子高齢化・単身化社会の到来は、社会の在り方も変えようとしています。私たちは、時代の大きな変化の節目にあり、対応することを求められているようです。そうした時代を生きる我々が、今後の未来を生きる子供たちに残せるものは、これまでに経験した様々な事象に正面から向き合って検証し、その経験を未来に活かすための取り組みを行うことではないでしょうか。

私達人間は、生き物であり、地球という環境の中で生きています。他の生き物や自然環境との調和こそ、その繁栄の礎となる筈です。第4回目となる本会議では、「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつの命の幸せを繋いでいくことで構築されていく」という“One World, One Life”の概念を元に、同じ地球上に生きる全ての生命に対する人間の責任を会場にお集まり頂いた皆様と共に議論し、現代を生きる我々からのメッセージとして情報の発信をさせて頂きました。





ポスターセッション

- 1 “Does Poverty Perpetuate Rabies In Bangladesh!”
Naila Al Mahmuda (Research Center for Child Mental Development, Kanazawa University, Japan)
- 2 “SILENT REVOLUTION OF RABIES ELIMINATION FROM BANGLADESH!”
MD. GOLAM ABBAS
(Department of Molecular Neuroscience and Integrative Physiology, Kanazawa University, Kanazawa, Japan and Infectious Diseases Hospital, Dhaka, Bangladesh)
- 3 「樹状細胞の免疫活性に対する卵巣ホルモンの影響」
Nadeeka Harshini De Silva (Department of Advanced Pathobiology, Osaka Prefecture University)
- 4 「がん細胞へのサイトカイン遺伝子の導入による抗がん免疫反応の増強」
Daluthgamage Patsy Himali Wijesekera (Department of Advanced Pathobiology, Osaka Prefecture University)
- 5 「バングラディッシュの2つの地域におけるネコインフルエンザ感染率の調査」
Alam Md Emtiaj (Department of Advanced Pathobiology, Osaka Prefecture University)
- 6 “A Spontaneous Case of Appendicitis in Rabbit (*Oryctolagus cuniculus*)”
PERVIN MUNMUN (Osaka Prefecture University, Veterinary Pathology)
- 7 「100匹のはりこねこ展 —猫による諸問題を考える、子どもたちとの展覧会作り—」
倉田 優子 (兵庫県動物愛護センター三木支所 動物愛護推進員)
- 8 「”豊かすぎる餌”がコウノトリのなわばり社会に与える影響」
野口真磨子 (兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科)
- 9 「リボソームを応用した犬用歯周病粘膜ワクチンの開発」
清水 遥介 (大阪府立大学 生命環境科学研究科)
- 10 「pH感受性リボソームを応用した腫瘍ワクチンの開発」
岡崎 誠治 (大阪府立大学 生命環境科学研究科)
- 11 「ウェルシュ菌芽胞形成の新しい評価法の開発」
若林 友騎 (大阪府立大学 生命環境科学部獣医学科 獣医公衆衛生学教室)
- 12 「ミニチュアダックスフンド犬の舌における多発性組織球性泡沫細胞結節」
加藤 智彩 (大阪府立大学大学院 獣医病理学研究室)
- 13 “Field-Validation of Minimum Application Intervals for Use of Raw Animal Manure as a Soil Amendment in the Central Valley, California”
Saharuetai Jearmsripong (Western Center for Food Safety, University of California, Davis, Davis, CA)
- 14 “Linkages between Pathogens and Cattle Fecal Loads and Microbial Water Quality in Aquatic Ecosystem in Sierra Nevada Meadows of California”
Anyarat Thiptara
(Department of Population Health and Reproduction, School of Veterinary Medicine, University of California, Davis, CA, USA/
Epidemiology Section, Veterinary Research and Development Center (Southern Region), Thung Song, Nakhon Si Thammarat, Thailand)



ヒルズ・スチューデント・サポートプログラムにより、参加者への交通費の助成を頂きました。

ICAC KOBE キャラクターのご紹介

「アクア (神)」と「プカコモ (扉)」ハワイ語で二人で「神の扉 (神戸)」という意味です。私達はアニマルケアのキーワードを表現しています。生き物本来の在り方、「ハウオリ (幸せ)」、お互いの存在への「マハロ (感謝)」、そしてこの会議のテーマ「クレアナ (責任)」です。

アクア
(Akua)
神



プカ・コモ
(puka komo)
扉



ハウオリ
(Hau'oli)
幸せ



マハロ
(mahalo)
感謝



クレアナ
(Kule.ana)
責任



REPORT

第1日目 レポート (7/19)

開会式

7月19日 9:30 ~ 10:00 / コンベンションホール



ICAC KOBE は、阪神・淡路大震災から 15 年目の 2009 年より隔年で開催され、2015 年は震災から 20 年目の大きな節目となりますので、昨年 7 月に開催された第 3 回大会に引き続いての開催となりました。初心を忘れないために、毎回、開会式では阪神・淡路大震災当時の様子を編集した動画を上映し、震災の犠牲になった多くの人と動物に黙祷を捧げてきましたが、震災後、兵庫県の動物愛護センター建設にご尽力下さり、昨年不慮の事故によって急逝された貝原俊民前知事と、この会議の準備中の 5 月に急逝された共催団体・近畿地区連合獣医師会の松林驍之介前会長のご冥福を共に祈りさせていただきました。



神戸市保健福祉局健康部生活衛生課長 丸尾登氏



兵庫県動物愛護センター所長 河野寛昭氏

はじめに、実行委員会を代表して、神戸市保健福祉局健康部生活衛生課長の丸尾登氏より人と動物の関わりについて持続的発展、そして人と動物の幸せな未来に対する願いが語られ、次に、兵庫県動物愛護センター所長の河野寛昭氏からは、上映されたビデオを見ながら脳裏に去来した当時の話を交えつつ、人との繋がりや出会いの大切さ、そして国をあげての社会づくりの重要性が語られました。

引き続き、共催団体の近畿地区連合獣医師会を代表して、松林前会長の遺志を引き継ぎ、新たに会長に就任された佐伯潤氏よりご挨拶を頂きました。災害時のみならず、人と動物の両方に関わっている獣医師という立場の責任の重さと、ここに集まった同じ思いを持った皆様に感謝の意が伝えられました。



近畿地区連合獣医師会会長 佐伯潤氏

その後、司会者の公益社団法人 Knots 理事長の富永佳子氏から、ご支援を頂いている皆様の紹介と、会議全体の構成段階からアドバイスを下さった会議アドバイザーのヒト医療識者・竹内勤氏、理学系識者・松沢哲郎氏、文系識者・奥野卓司氏が紹介され、ICAC KOBE 2015 阪神・淡路大震災 20 年記念大会 - One World, One Life が開幕しました。

基調シンポジウム

「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ
— 護るべき大切な日常とは? —」

7月19日 10:30 ~ 13:00 / コンベンションホール



座長 京都大学 名誉教授 位田 隆一氏

開会式に引き続き、この会議全体のベースとなる基調シンポジウムが開催されました。私たちの守るべき大切な日常とは何か、「生き物としてのヒト」から考えるということテーマにして、濃密な議論が繰り広げられました。

小原氏の発表では、「We (私たち)」という隣人としての考え方の枠組みを変えていくことで、この国際会議のテーマでもある「全ての生き物」に対する人間の接し方が変わるという概念を、これまでの人間の歴史の実例を挙げながら分かりやすく提示して下さいました。例えば、アメリカの法律によって認められた同姓婚に対する社会的な考え方などは、時代によって「パブリック (We)」の境界線を変化させることが可能であるということが具体的に示された事例といえます。こうしたパブリックの境界を変化させていくことで、人間中心、隣人中心の「We」の概念を変化させ、この会議のテーマでもある「全ての生き物のケアを考える」という壮大なテーマについての可能性を示唆されました。



同志社大学 神学部 教授 小原克博氏

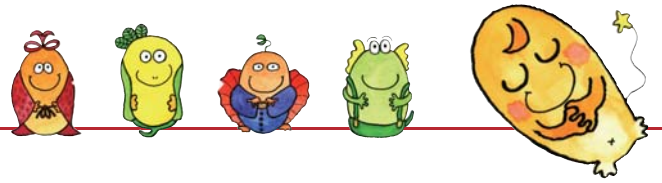


長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 篠原一之氏

次に、「家族愛の脳科学」と題された篠原氏の発表では、人間にとっての「報酬=愛」を、家族の笑顔を見ることによってもたらされる脳内の前頭前野 (PFC) の反応によって調査するという、非常に興味深い研究内容が報告されました。

情動的・直感的な傾向が強いとされる母親の脳と、理論的傾向が強い父親の脳内の反応が示され、実際には母親的な脳を持つ父親やその逆が生物には多様に存在するのです。そうした多様性こそが、さまざまな状況や環境に適応しつつ次の新しいジェネレーションを生み出してゆく生物の可能性でもあるのです。

また、生殖能力が無くなった後にも他の生物では考えられないような長生きをする人類には、孫に対して母親と父親の脳の両方をバランスよく備え持つ祖母仮説という特殊な愛情の受容形態があり、母親や父親との関係だけではな



親く、祖母と孫という長寿命の人類ならではの関係性が子孫繁栄に寄与しているのではないかという仮説も興味深い報告でした。



宮城大学 食産業学部
教授 森本素子氏

森本氏の発表では、人間を構成する 60 兆個という細胞のひとつひとつが、変化に対応するということを前提とした構造を持っており、わずか 4 日で入れ替わる小腸の絨毛をはじめとして、私たちの身体は変化を受容しながら日々新しく生まれ変わっている姿が紹介されました。

こうした生物としての柔軟性を東日本大震災での自らの被災経験に重ねあわせ、変化を受け入れながら互いに補完する社会、そしてそれまで考えもしなかった新しい経路での自己を形成し、外からの圧力をテコにして生き残っていくとする生命の力強さが語られました。

いずれの発表も、それぞれの観点から「変化に対応する」ことの重要性が語られていたように思います。この基調シンポジウムのはじめに、座長の位田氏によって語られた、「元に戻すという『復興』という観点から、新しい自分、新しい社会の始まりという観点への変換」が重要であり、人と動物と自然のバランスを保ちつつ生きるという言葉が、今の時代を生きる私たちの未来を象徴しているように感じました。



ポスターセッション

7月19日・20日 / 1F エントランス・ホール



ICAC KOBE 2015 の会場となる神戸大学総合研究拠点、学際研究推進体制を人文・社会学系を含めた全学規模に拡げ、大学の研究成果を集積することを目的に設置された施設で。この会議では、メインホールの他にラウンジ、セミナー室を使用して、同時に3ヶ所でシンポジウムとセッションが開催されました。

また、1階のエントランスはコミュニケーションルームとして開放され、シンポジウムや各セッションの合間の時間などに多くの来場者が訪れる場所となりました。国内外から参加した 14 組のポスターセッションが開催され、来場者との

積極的な交流の場となりました。審査員となる事務局アドバイザーが発表者から説明を受けたりしながら審査を行ない、翌日の閉会式でアワードが発表されることになっています。

シンポジウム 1

「同行避難～これからの人と動物の緊急災害時」

7月19日 14:30～17:30 / コンベンションホール



杉原未規夫氏



寺井克哉氏



遠山 潤氏



大西 一嘉氏



山口千津子氏

阪神・淡路大震災で大きな課題となった動物との同行避難ですが、その後の中越大震災、東日本大震災などの災害を例に、兵庫県、新潟県、静岡県等の行政の担当者と、都市の安全計画の専門家、そして、災害時に現場で救助・復興のアドバイスを行なった専門家によって集中的に議論が行なわれました。

複数の災害事例を持ち寄り、多角的に議論を行なう機会はそれほど多くありません。これらの発表の中から垣間見えるのは、災害が発生した地域によって対応や必要とされている支援の内容が違うということです。

兵庫県動物愛護センターの杉原氏からは、阪神・淡路大震災当時のスライドを紹介しつつ、どのような被害の中で動物の救護活動が行われたのかが報告されました。当時集まった義援金の残金は、緊急災害時動物救護本部へと引き継がれ、今後の国内での災害時の動物救護初期経費として活用されることになりました。活動を通して実際に経験した、初動時の経費不足に苦慮したことが今後に活かされた事例です。

静岡県健康福祉部の動物愛護班・寺井氏は、東日本大震災での経験を踏まえ、「動物愛護」「被災者の心のケア」「人への危害防止」の観点から同行避難の必要性を示されました。同時に多くの人が被害に遭う災害では、基本的には避難所での飼育管理は飼い主の責任となりますが、飼い主そのものが被害を受けている中で、如何にその責任を全うしてもらえる仕組みを地域の中で作っていくのかが、今後の行政の大きな課題となっています。

また、新潟県動物愛護センターの遠山氏の報告では、柏崎市が発表した避難所開設運営マニュアルの中には、はじめからペットを連れて同行避難をすることが前提になったチェック項目があり、犬の大きさや飼育頭数などを記載する欄が設けられています。動物との同行避難という課題は、けっして動物を飼っている人だけの問題ではなく、地域全体の問題として人と動物の両方に手を差し延べるべき課題であるという指針が示された好例といえるのではないのでしょうか。

そして、神戸大学大学院研究科で都市安全計画の専門家でもある大西氏からはこれらの話を受けて、日常生活の中でどこにどのようなリスクが潜んでいるかを把握し、日頃から万が一のためにイメージトレーニングをしておくことの重要性が伝えられました。被害に遭うのは必ずしも在宅時ではないことが多いので、さまざまな状況に応じたシミュレーションをしておくことが大切です。

最後に、日本動物福祉協会の山口氏から同行避難について誤解されやすい部分についての具体的な説明がなされました。同行避難の基本は、飼い主が平時から備えておくということです。国や自治体は、あくまでも法律やマニュアルなどを策定し、救護および避難所への受け入れ態勢を整備することにありますので、家族の一員であるペットの命や幸せを守り、社会に対する責任を全うするのは、やはり最終的には飼い主なのです。そのために、日頃から各自で非常時に備え、地域の安全を自治体で守り、国がそのシステムを整備するということが強く求められているのです。



江崎保男氏



佐藤哲也氏



藤井啓氏

して頂き、一面的な対策の集合ではなく、「One Plan Approach」という多面的かつ統合的な対策の重要性について報告が成されました。

かつて日本全国に分布していたコウノトリは、兵庫県但馬地方の限られた場所でのみ棲息が確認できるまでに数が減少しました。兵庫県は、1999年に兵庫県立コウノトリの郷公園を開設して保護および繁殖を試み、2005年に野生復帰を開始しました。同公園の総括研究部長・江崎氏の発表では、コウノトリの野生復帰にはその個体がそれまでに生きてきた環境そのものの復元、ひいては我々人間の生活そのものを見つめ直すことが必要であるという考え方が示されました。我々日本人がこれまで農耕民族として培ってきた水田の生態系を見つめ直し、官民の連携で「人と自然の共生」の実現に向けた試みが紹介されました。

那須どうぶつ王国園長の佐藤氏からは、長崎県対馬にわずか70~100頭しか残っておらず、絶滅の危機に瀕しているツシマヤマネコについての調査報告が行なわれました。この報告では、県外の施設などで繁殖を行って対馬に戻すという生息地域外での保全に関する取り組みが紹介されましたが、2013年までは思わしい成果を得ることができませんでした。しかし近年、民間団体と環境省が連携し、域外で繁殖した個体を野生馴化して野生復帰させる国内初の試みとして推進されているとのことでした。

ゼニガタアザラシは、環境省のレッドデータに於いて絶滅危惧Ⅱ類に分類されていますが、その一方で、漁業にとっては害獣であるという一面もあり、また観光資源としての活用が進むなど、アザラシを巡っての人と動物との関係が複雑に絡み合っています。こうした現状について議論できる場として組織されたプロジェクトとったり・代表の藤井氏から、人と動物、そして環境とのかかわりについて大きな課題を投げかける報告がなされました。

オーラルセッション 1

「食の安全／人獣共通感染症」

7月19日 14:30～17:30 / ラウンジ

お詫び

演者の都合により中止されました。関係者およびご来場の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

オーラルセッション 2

「One Plan Approach ～野生動物と共存していくための包括的な取り組み」

7月19日 14:30～17:30 / ラウンジ



座長 高見一利氏

日本野生動物医学会の運営協力により、希少動物の保全活動を通して人と動物、そして生息環境との関係が議論されました。今回のセッションでは、コウノトリ、ツシマヤマネコ、ゼニガタアザラシの保全活動の内容と目指すべき方向を具体的に示



レセプション

7月19日 18:30 ~ 20:00 / 神戸ポートピアホテル

午後からのシンポジウムとセッションの終了後、会場を神戸ポートピアホテルに移してレセプションが開催されました。さまざまな専門分野の方が一堂に会し、全く違う分野の専門家同士や会議に参加した来場者が交流できる場として、毎回多くの方にご参加頂いています。

今回は、会議支援企業のトップの方々も多くご参集下さり、134名の参加がありました。

まず始めに、文系識者として助言を頂いた会議アドバイザーの奥野卓治氏から開会の挨拶を頂き、改めて震災を知らない人に語り継ぐことの重要性が語られました。奇しくも、今年は戦後70年の年でもありますので、震災のみならず、現代を生きる我々に課せられた大きな使命に対するメッセージだったのかもしれません。



会議アドバイザー
奥野卓治氏



日本ヒルズ・コルゲート社長
ゴードン・ディメシッチ氏

次に、特別協賛の日本ヒルズ・コルゲート代表取締役社長のゴードン・ディメシッチ氏よりご挨拶を頂きました。「日本語はあまり得意ではないから…」との前置きがありましたが、ヒルズが社を挙げて取り組み始めた小学校でのペットの飼い方の指導や自然環境への取り組みなど、「持続可能性」という言葉を何

度も使用した日本語でのご挨拶が心に残りました

乾杯のご発声は、公益社団法人日本獣医学会理事長および東京大学教授の中山裕之氏にお願いさせて頂きました。この会議の分野は、まさに獣医学が貢献している分野であり、人と動物のひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいく重要な役割が与えられているという強い思いが語られました。そして、今後もこの「One World, One Life」を継承し、会議が益々発展することを祈願しつつレセプションの幕が上がりました。

ポートピアホテルはグルメの街・神戸の中でも評価の高い料理を提供することでも知られています。料理と飲み物を片手に、各分野の専門家の皆様やポスターセッションに参加している大学院生、一般の参加者が世代や分野、国境を越えてあちこち



で楽しそうに交流している姿を目にすると、このレセプションの在り方こそが、ICAC KOBE という国際会議の場を象徴しているようにも感じました。

さて、お楽しみのソプラノ・隅田あゆみ氏とピアノ・西坂優子氏による音楽の時間ですが、プッチーニのオペラ『ボエーム』の「私が街を歩くと」では、パトロン役に



左から 梅木氏、隅田氏、笹井氏

に実行委員会の大阪府立大学教授・笹井氏と元恋人役に神戸市保健福祉局健康部の梅木氏が抜擢され、会場の皆様から大きな拍手を受けていました。



神戸市獣医師会 会長
中島克元氏

会場のあちこちで話が尽きることがありませんが、ご多忙の中、このレセプションのために駆けつけて下さった公益社団法人 神戸市獣医師会会長の中島克元氏より閉会のご挨拶を頂きました。20年前の震災で自宅が全焼し、病院が全壊するという被害を受け、その後、市内の仮設病院で再開し、今日に至っておられます。冗談を交えながらのお話でしたが、きっと人には言えないご苦労の数々が脳裏をよぎっておられたのではないのでしょうか。

来場者の皆様の中にも、20年前のあの日、中島氏と同じ経験をされた方もおられたかもしれませんが、私たちの経験を次の世代に語り継ぐ場にこうして集い、時間を共有することが出来たことに大きな意味があるのかもしれません。



▲ 海外演者の皆様

Knots アドバイザ
リーボードの皆様

▼ ボランティア・スタッフ一同



REPORT

第2日目 レポート (7/20)

シンポジウム 2

「最近問題となった人と動物の共通感染症」
7月20日 10:00～13:00 / コンベンションホール



座長 吉田 博氏



加藤康幸氏



高崎智彦氏



前田 健氏



宮川昭二氏

人と動物との関わりは、伴侶動物や産業動物だけではありません。毎年、ニュースにも取り上げられているウイルスによる感染症の問題も、さまざまな動物や昆虫を介して人に影響を与える大きな課題となっています。とりわけ、エボラ出血熱、デング熱、中東呼吸器症候群 (MERS)、SFTS は、私たちにも身近な問題として近年日本でも大きく報じられてきましたが、その実態を一般市民が深く知る機会はありません。

1976年にアフリカの中央部で見出されたエボラ出血熱は、昨年、リベリアの大統領から非常事態宣言が発令され、国家を揺るがすほどの危機的な状況であったことは、私たちの記憶に新しい出来事です。WHO チームの一員としてリベリアに派遣された加藤氏は、医療機関のみならず、医師や物資が足りない中での医療行為を紹介しつつ、これまではジャングルに隣接する小さな村だけで治まっていた感染が、アフリカの奥地まで広がった車社会によって都心部へと広がっている可能性も示唆されました。こうした背景には、近年増加の傾向を辿っているリベリアの人口に対する食料の確保や生活スタイル、交通手段の変化なども関係しているようです。

昨年、国内で流行の兆しを見せたデング熱の媒介蚊となったヒトスジシマカは、通常から日本国内に多数生息していますが、気候の変動によって年々その生息域の分布北限は北に移動しており、他にも日本で発生している新興感染症として、O157 やノロウイルス、HIV、E 型肝炎、トリインフルエンザ (H5N1)、新型ヤコブ病、そして今年になって韓国で発生した MERS などがあげられます。

また、ダニを介して感染が拡大するダニ媒介感染症も私たち

の身近に潜む感染症のひとつで、2012年には国内で致死率の高い重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) による感染が報告されました。特にペットなどに付着したダニから人に感染する可能性が指摘されていますが、きちんとした知識を持って未然に感染を防ぐ対策を行なうことが重要です。

さまざまな感染症が世界各国で流行する可能性が高まっている要因のひとつとして、簡単に遠距離を行き来することができる世界の航空事情などが挙げられています。これらのことは、便利さを求めて技術の革新を行ってきた人類への警鐘なのかもしれません。これまでウイルスの研究や予防策の開発は一部の専門家の仕事とされてきましたが、今後、新たなウイルスのリスクに対して国民全体で情報を共有し、国や専門機関との連携による危機管理意識の向上が不可欠といえるでしょう。

シンポジウム 3

「災害に強い日本型畜産の構築のために」
7月20日 10:00～13:00 / 会場：ラウンジ



座長 大山憲二氏



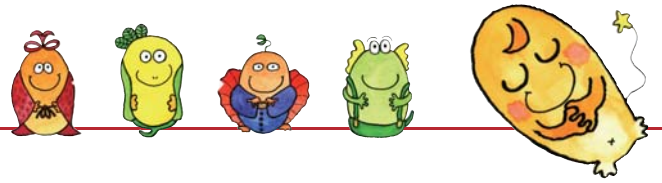
犬飼史郎氏



吉泉 努氏

産業動物と私たち人間の生活は、切っても切れない密接な関係にありますが、普段、畜産について一般市民が思いを寄せることはほとんどありません。スーパーに行けばお肉や牛乳、卵が手に入ることが当たり前になっていますが、災害が起きた時の対応はどうなっているのでしょうか。災害に強い日本型畜産の構築をテーマに、4名の演者の方が発表を行なって下さいました。

大型動物である家畜の飼育には、私たちの知らない多くの苦勞が日常的に行なわれています。例えば、牛1頭の糞尿は人間100人分に相当し、出荷前の牛は700kgにもなります。災害時ともなれば、家畜たちも興奮しており、取り扱う側にも命の危険が伴います。それらを安全に被災地から移動させるためには、専用のトラックと技術者が必要になり、1台のトラックには、12頭ほどしか乗れません。トラックがあっても、災害時はガソリンが手に入らず、その移動には、私達が考えもつかない困難が伴います。家畜改良センターは、通常は、家畜改良や有料種畜、



長谷川敦氏



本田義貴氏

飼料作物種苗の生産・供給などを行っておられますが、その家畜関連知識と技術の高さを災害時に提供できるように外部支援の仕組みをお持ちです。東日本大震災の際には、12,000頭の移動に尽力されました。その他、新燃岳噴火の際には、家畜の移動だけでなく、火山灰により畜舎が崩壊するのを防ぐために灰の除去を行われたりと、災害の度に日本の畜産を守るために貢献されています。また、家畜の配合飼料のほとんどは海外からの輸入に頼っているのが現状です。そのため、沿岸部に備蓄の施設が多く、東日本大震災でも

主要な施設が大きな被害を受け、被害のない地域から迅速に供給していかねばなりませんでした。こういった危機対応のため、飼料の国産化も大きな課題となっており、この分野については、協同組合日本飼料工業会が取り組んでお

られます。更に、鳥インフルエンザなど、家畜伝染病への対応も大きな課題ですが、例えば兵庫県では、国や自治体、自衛隊、警察などの他にも、バス協会、建設業協会、造園建設業協会等も、防疫協力体制に参加しておられ、危機対応には幅広い連携が必要なのだと改めて感じました。

伴侶（家庭）動物については、家族の一員は自身で守るということで、同行避難が原則になりました。これは、飼いの主責任をより強く求められているということでもありません。経済動物である産業動物は、事業主が全ての責任を負う原則で、共済制度などもあります。その災害対応は、その危機を乗り越え、畜産事業を健全に継続することが目標です。そしてそれは、私達の食の危機管理でもあります。

会場では、家畜についての知識・技術については、例えば大学農場などにもあり、今後は、そのような連携構築も考えられるのではないかという意見もあり、UCデービス校からの参加者からは、シンポジウム5での同大学の取り組みも案内されました。

日本の畜産の課題にも目を向け、産官学民の連携の可能性を、もっと考えていかねばならないと感じました。

オーラルセッション 3

「教育／子ども達との関わり」

7月20日 10:00～13:00 / 会場：セミナー室



座長 天ヶ瀬正博氏

これからの未来を担う子どもたちに対して、「いのちの大切さ」「いのちへの共感」をどのように教育していくかは、世界的にも大きな課題となっています。このセッションでは、主に日本、中国、アメリカ、バングラデシュで行われている教育プログラムについての報告が行われました。

また、子どもたちへの教育だけではなく、国民に対する啓発に関する教育や、その国に独自に根付いた共生に対する価値観など、私たちが国際会議の場で学ぶべき課題は多くあります。それぞれの文化的背景によってその目的や手法は異なりますが、昨年の第3回大会に引き続き教育に関するセッションには多くの人が集まり、この分野に対する興味とその効果について、大きな関心が寄せられているのを実感しました。

アメリカからは、動物介在教育の専門家として数年間に渡りグリーン



Pei F. Su 氏

チムニーズと共同研究を行っているデンプー大学のテデッチー氏と、実際に動物を取り入れ、家庭環境やメンタル面でサポートが必要な子どもたちに対するプログラムを実施しておられる、グリーンチムニーズ教育プログラム部長の木下氏から共同発表が行なわれました。



Golam Abbas 氏

動物の存在は、精神的な「Resilience（回復力、逆境に負けない力）」を与えることは従来から知られていますが、災害などの悲劇的な体験でトラウマを抱えた子どもたちが、動物と共に生きることでその逆境を克服することにも注目が集まっています。この発表では、こうした子どもたちの心のリスクと保護、回復についての科学的な報告が行われました。

次に、中国の学校教育の現場で動物愛護の教育を行なうことによって、さまざまな諍いの種を管理するプログラムについて、ACTAsiaの



Philip Tedeschi 氏



Miyako Kinoshita 氏



Naila Al Mahmuda 氏



大森亜起子氏

スー氏から報告がありました。虐待のサイクルは、動物虐待、家庭内暴力、そして人間への暴力と一連の関係性があることはすでに知られていますが、こうした関連を人間と動物、自然環境が全て相互に関係していることを認識し、それを知ることによって自己を見つめ直す切っ掛けとなり、暴力的な行動を抑制する効果があることが示されました。



中塚圭子氏

また、奈良県が、地域振興という位置付けで、人と動物との関わりを考えることによって豊かな心を育てるヒューメイン・エデュケーションを実施する「奈良県のいのちの教育プ

ログラム」とその評価に関する報告がありました。いのちの教育プログラムの普及支援事業の一環として希望する自治体に教育ツールの提供が行なわれたこともあり、東京の八王子市で実施をしている動物愛護推進員の方からも関東での実施効果について言及があり、同プログラムの普及も着実に進んで来ているようです。

バン格拉デシュからは、狂犬病の予防に対する認識が十分でないことによる発病のリスクが国内全体でまだ高く、街中にも野良犬と呼ばれる飼い主のいない犬が多数ウロウロしています。こうした被害に遭うのは、多くの場合は子どもたちですが、それらの被害は今後の教育と動物の福祉向上の取り組みによって改善できるリスクだという報告が行われました。

最後に、日本国内に多数存在する犬にまつわる伝説を読み解き、古来より日本に存在した犬との共生の在り方を紹介する発表が行なわれました。弘法大師を高野山へと導いた白犬と黒犬の物語を例にあげ、犬の習性を尊重した日本ならではの犬との付き合い方が紹介されました。

地域毎に抱えている問題や取り組んでいる内容も違っていますが、どの地域においても動物や自然とより良いかたちで共生するためには子どもたちを正しく教育し、地域の人々に啓発を行なっていくことが必要不可欠であると強く感じました。

シンポジウム 4

「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム
— 伴侶（家庭）動物との暮らしを地域活性へ」

7月20日 14:00~17:00 / 会場：コンベンションホール



左：座長 細井戸大成氏 / 右：モデレーター 富永佳与子氏

神戸市動物管理センターでは、高齢者を中心とする飼い主からの死亡・入院による引き取り割合が増加しており、



懸上忠寿氏

その内の75%は入院であることから、この高齢者・単身者への支援があれば、「持ち込まれる命ゼロ」に繋がるという課題に対し、人間の医療面で進められている地域包括ケアシステムに動物に関わる人々や組織を組み込むという ICAC KOBE 2014 での提案を引き継ぎ、開催されたシンポジウムです。



西澤亮治氏

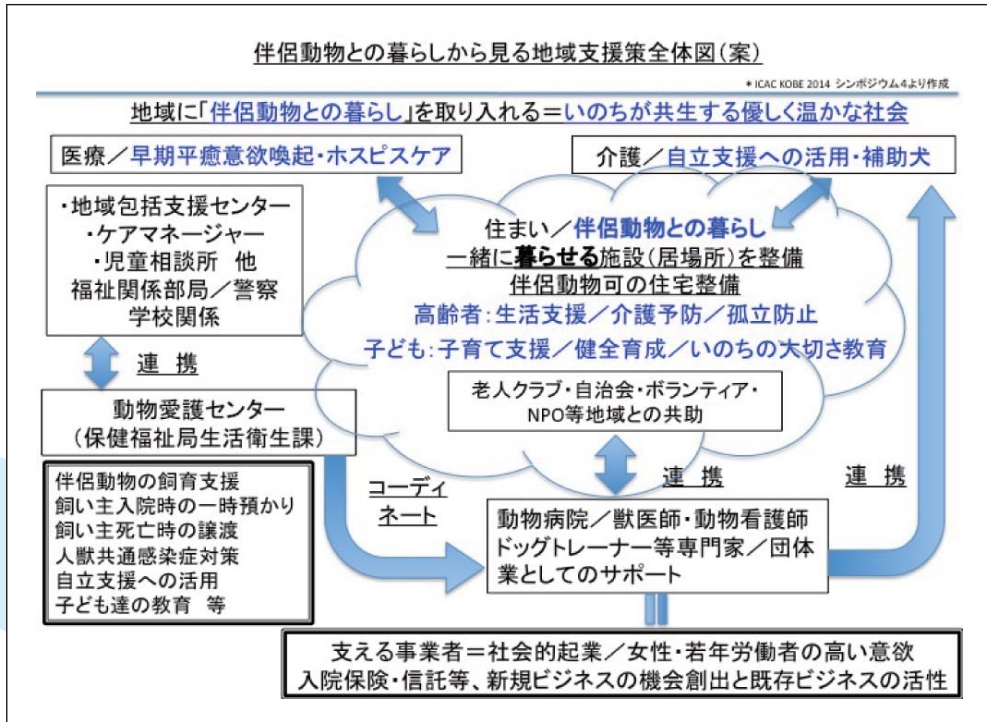
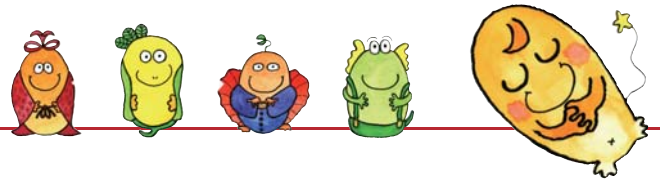
ペットと暮らすことは、高齢者の生活に良い影響を及ぼすことが報告される一方で、ペットを飼いたいけれど自身の年齢や体力を考慮し、ペットを飼わないという選択をする高齢者が多いことも明らかになりました。超高齢化社会を迎えた我が国で、心身共に豊かで安心して生活ができる社会にするためにはどうすれば良いのでしょうか。こうした背景を踏まえ、いのちが共生する優しく温かな社会の構築について、行政、獣医師、民間企業、そして社会福祉



森川功一氏

制度についての専門家にご発表を頂き、活発な意見交換が行なわれました。

ペットは愛玩動物から家族の一員へ、さらに社会の一員としてその位置づけが変化してきました。そしてそれに伴い、行政や動物病院を中心とする動物に関わる人々には、社会の中で高齢者や子どもとの関わりをコーディネートし、豊かな地域コミュニティの再構築に貢献するという、重要な役割が求められるようになって来ました。それを表現し



トと見つめ合うと飼い主のオキシトシンが上がるという論文も発表されており、生き物としてのヒトに、ペットとの暮らしは、その生活の質を高めるためにも必要なのではないのでしょうか。大阪市獣医師会では、高齢者に子猫のミルクボランティア（授乳の必要な子犬・猫を飼育し、飼育可能な人へ譲渡していく取組み）をお願いして、高齢者が、少しでも動物や社会と接点を持つことのできる試みを始めようとされています。

神戸市は、地域包括支援センター（概ね中学校区一カ所）に独自の「見守り推進員」を置いています。阪神・淡路大震災の復興住宅の高齢者支援から孤独

死対策と繋がっているもので、その先にある社会からの無縁化する人々を放置しない（社会的包摂）も求められています。これからは、所謂監視的なものではなく、緩やかな見守りというのが理想です。その実施に置いて、動物が関わることは、豊かなコミュニティの構築に、一定の役割を果たせるように思いますし、動物管理センターの課題ともリンクします。高齢者の状況も個々人で違っており、基調シンポジウムにあった祖母脳の話も考え合わせれば、支援されるばかりではなく、子ども達の見守りや孤立する保護者への子育て支援等、多くの役割を期待されることでしょう。中学校区という顔の見える範囲のコミュニティの再構築は、まさに阪神・淡路大震災の経験を未来に繋げる大きな可能性を感じさせる取組みであり、市民ひとりひとりの幸せな在り方に付いて社会が協働出来る場が提供される可能性を感じました。

たものが、上の図です。地域包括ケアシステムとは、「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保する為に、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが、日常生活の場で適切に提供できる様な地域での体制」のことです。

高齢者施設でも少しずつですが、飼育していたペットと入居できる事例も出て来ており、地域包括ケアシステムの中で、高齢者の飼育継続に具体的にどのように支援の仕組みを整えていくかが、課題となります。良いモデルが出来れば、普及も進むことでしょう。家族の一員としてペットを考える保険会社では、付帯サービスにペットの24時間電話医療相談サービスが設定されていますが、今後は、飼い主の危機に際してのペットの保護への備えも飼い主の責任として考えておく必要があるのかもしれない。

高齢飼い主の意識調査の中で、高齢の飼い主は、ペット飼育が自分の健康に役立つと他の世代より強く感じており、ペットを飼っている高齢の飼い主は、一般的な高齢者に比べ、日常生活に満足している人が35.4%（一般12.0%）、まあ満足を入れると92.5%が満足しており、ほとんど不満のある人がいません。普段の生活で楽しいことは、ペットと過ごすこと87.4%（一般では、テレビ・ラジオが83.2%/複数回答）とペットとの日常生活の満足度が大変高いという調査結果が報告されました。ペッ



上杉 克氏



松原一郎氏

高齢飼い主の意識調査の中で、高齢の飼い主は、ペット飼育が自分の健康に役立つと他の世代より強く感じており、ペットを飼っている高齢の飼い主は、一般的な高齢者に比べ、日常生活に満足している人が35.4%（一般12.0%）、まあ満足を入れると92.5%が満足しており、ほとんど不満のある人がいません。普段の生活で楽しいことは、ペットと過ごすこと87.4%（一般では、テレビ・ラジオが83.2%/複数回答）とペットとの日常生活の満足度が大変高いという調査結果が報告されました。ペッ



シンポジウム 5

「日本の災害獣医療の今後を考える」

7月20日 14:00~17:00 /会場：ラウンジ



座長 佐伯 潤氏

阪神・淡路大震災から 20 年となる今年は、アメリカ南東部を襲ったハリケーン・カトリーナの被害から 10 年の年となります。日本でも、ニューオーリンズの街が水没した映像が報道されましたので、この災害を記憶している方も多くおられると思いますが、人と共に多くの動物も被災しました。



ジョン・マディガン氏

まず始めに、アメリカの多くの災害現場で災害獣医療の経験を持つカリフォルニア大学デービス校教授のマディガン氏から、同校の獣医緊急対応チーム (VERT) の活動内容が紹介されました。VERT は主に災害時における動物への対応およびトレーニングを行う組織で、UC デービスの教員や学生によるボランティアによって構成されています。



田中亜紀氏

マディガン氏の報告では、25% (日本では 21%) の飼い主がペットを残して避難することを拒否して現場に残り、一旦はペットを残してきた人の 50~70% (日本では 80%) が危険の残る被災地に戻ろうとしたという実態が示され、田中氏からは日本国内でも同様の認識があることが示されました。このことから、国や災害の種類の違いはあるものの、災害に見舞われる前に、動物と共に避難する体勢の構築が、その後の人と動物双方の安全にとって効果的で効果的であり、適切な準備と協調体制が人と動物と地域の安全を守ることに繋がるのが分かります。

また田中氏からは、実際の避難所や救護施設での動物の群管理や危機管理の現状が伝えられ、災害時に起こる問題の多くは、実は平常時から抱えている問題が露呈するケースが多く、もともと飼い主のいない猫などが被災地のシェルターに多数保護されるケースも見受けられるそうです。これらのことから、災害に見舞われる前に、地域ぐるみで解決しておくべき課題が多数あることが理解できます。

お二人の発表後に、マディガン氏の片腕でもあるパトリス・アンドラーデ氏も参加し会場からの質問にお応え頂きました。アメリカの災害獣医療のエキスパートであるお二人がこうして日本で一緒に登壇することはとても貴重な機会です。会場からは、災害現場でのリーダーシップの在り方についての質問があり、マディガン氏から丁寧な説明がありました。人生の基盤が崩壊するような非常時に、

動物の救助を行なうことに対する住民の理解やまだ十分に体勢が整っていない日本国内のこれからの課題を見つめ直す良い機会となりました。

オーラルセッション 4

「その他」

7月20日 14:00~17:00 /会場：セミナー室



小関 隆氏

このセッションでは、セッション 1~3 のいずれにも分類されない内容の発表が行なわれました。人と動物の関係は、これらの特定の分野に分類されるものではなく、あらゆる分野で繋がりがあっても過言ではありません。



中塚圭子氏

まずはじめに、93 の獣医師団体、15 万 8 千人の獣医師で構成される世界小動物獣医師会 (WSAVA) の活動内容について、アジア地区の代表大使である小関氏から報告が行なわれました。WSAVA は、毎年異なる地域で開催される世界大会で最新の医療知識を学び、さまざまなアニマルヘルスのトピックについて討論が行なわれている世界規模の獣医師の共同体です。ここでは、さまざまな Pain (痛み) を緩和するための「グローバル疼痛ガイドライン」と、人、動物、環境に関する専門家が協力して取り組みを行なう「ワンヘルス」について、狂犬病を例にあげながら報告が行われました。



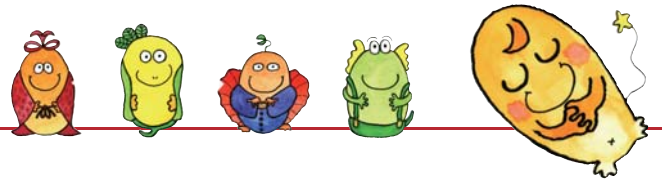
佐藤衆介氏



牧田明美氏

次に、環境人間学博士の中塚氏のグループから、獣医学や動物行動学に根差した欧米的なしつけとは別に、日本の暮らしや日本人の動物感に合った日本流の犬との付き合い方を、環境人間学の観点から提唱されました。「犬は人間が矯正することができない場面もあると認識する」「犬の個性を尊重し、あるがままの姿が活かされる」という考え方は、逆に飼い主の安心感に繋がるという報告です。

そして最後に、帝京科学大学の佐藤氏より東日本大震災および福島第一原発事故による警戒区域に残された牛についての報告が行われました。これらの地域では複合経営の農家が多く、家畜は少数飼育であるため飼育者との心理的な結びつきが強い地域でもあるため、そうした視点で農家に保護されている牛の活用を通して、未来につなぐ復興について意見を述べられました。



閉会式

7月20日 17:00~17:30 /会場：コンベンションホール

2日間に亘って濃密な議論が繰り広げられてきた ICAC KOBE 2015 ですが、無事に閉会式を迎えることができました。

国内外から参加者の集まったポスターセッションのアワード受賞者が、表彰されました。おめでとうございます！プレゼンターは、大阪府立大学 獣医学類長の笹井和美氏です。



アワード受賞者

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科
ダルスガマジ・パッツィ・ヒマリ・ウイジェセキラさん
兵庫県動物愛護センター 三木支所 動物愛護推進員
倉田優子さん
大阪府立大学生命環境科学研究科
清水遥介さん



阪神・淡路大震災から20年目の節目に開催された今回の国際会議ですが、次回開催の告知をさせて頂き、幕を下ろしました。

次回は、2017年の開催となります。

私たちを取り巻く環境は、地球温暖化による環境の変化や未知のウイルスによるパンデミック、そして超高齢化社会の到来など、これまでに経験のしたことのない様々な困難を乗り越えていかなければならない時代を迎えています。そうした中で、現代を生きる私たちが直面した課題は、基調シンポジウムで報告がなされたキーワード、「変化を恐れない」「生物の本来持つ柔軟性を知ろう」「生きる力を信じよう」という3つの言葉に集約されているのではないかと感じました。

「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構成されていく」という“One World, One Life”の概念のもと、大きな節目を迎えたこの神戸の地で、2年後の2017年にまた皆さまにお目にかかれるのを心より楽しみに致しております。

ご寄付頂いた皆様
(順不同・敬称略)

企業・団体 ● 日本ヒルズ・コルゲート株式会社／ロイヤルカナンジャパン
アサヒグループホールディングス株式会社／六甲山カンツリーハウス
DS ファーマアニマルヘルス株式会社／ペットライン株式会社
au 損害保険株式会社／神戸市動物愛護協会

助 成 ● Meet in KOBE
公益財団法人 中内力コンベンション振興財団

個人 ● 柴内 裕子／大城 陽子／大城 勝／川下 明広／武藤 具弘
高光 仁芳／金田 京子／小林美和子／堤 清蔵／杉村 肇
加藤 元／小嶋 佳彦／田舞 理央／レモン由美／大西 猛
植村 興／ 寄付ボックスにご寄付頂いた皆様

PUBLIC RELATIONS

広報資料集

広報・制作物

● 開催告知チラシ (A4・4ページ、1,000部作成)

Live Love Animals CAC KOBE 2015
 ~第4回神戸全ての生き物のアを考える国際会議2015~
 ~第1回・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ~
 ~第2回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life~

阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ

私たちは、あの震災から何を学んだのか。そして、人間が果たすべき役割とは何か。

開催決定

開催日時 2015年7月19日(日)・20日(月・祝)

開催場所 神戸ポートピアホテル

主催 CAC KOBE 阪神・淡路大震災20年記念大会実行委員会

協賛 日本赤十字社、日本動物愛護協会、動物愛護センター、動物愛護センター、動物愛護センター、動物愛護センター

お問い合わせ http://cac.kobe.or.jp/

Live Love Animals CAC KOBE 2015
 ~第4回神戸全ての生き物のアを考える国際会議2015~
 ~第1回・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ~
 ~第2回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life~

阪神・淡路大震災から20年へ、CAC KOBEは、
 ~第4回 神戸 全ての生き物のアを考える国際会議2015~
 ~第1回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life~

「ア」をテーマにした国際会議「CAC KOBE」のあゆみ

第4回 神戸 全ての生き物のアを考える国際会議2015

第1回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第2回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第3回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第4回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第5回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第6回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第7回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第8回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第9回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第10回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第11回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第12回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第13回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第14回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第15回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第16回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第17回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第18回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第19回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第20回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

● IAHAIO 総会用 英文チラシ (A4・両面、250部作成、IAHAIO 2015にて配布)

Live Love Animals CAC KOBE 2015
 ~第4回神戸全ての生き物のアを考える国際会議2015~
 ~第1回・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ~
 ~第2回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life~

What have we learned from earthquake disaster? What roles should we humans play?

Keynote Symposium

Panel Discussion

Workshop

Poster & Award

Oral Session

Registration

Website http://cac.kobe.or.jp/corporation/2014/11/cac-kobe2015_outline/

● ICAC KOBE 2015 パンフレット (A4・4ページ、20,000部作成、会議関係者により関係先に配布)

Live Love Animals CAC KOBE 2015
 ~第4回神戸全ての生き物のアを考える国際会議2015~
 ~第1回・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ~
 ~第2回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life~

阪神・淡路大震災から20年へ、私たちが向き合ふべきことは何か

はじめに

第4回 神戸 全ての生き物のアを考える国際会議2015

第1回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第2回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第3回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第4回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第5回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第6回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第7回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第8回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第9回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第10回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第11回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第12回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第13回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第14回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第15回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

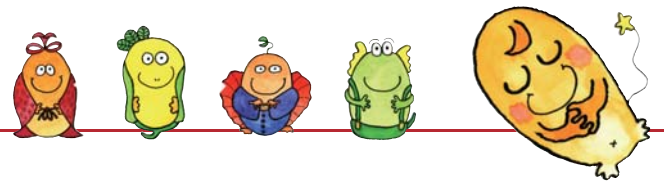
第16回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第17回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第18回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第19回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life

第20回・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life



● ポスター（駅貼り用・7月上旬より掲示）



▲ JR三ノ宮駅



▲ JR元町駅



▲ JR新神戸駅



▲ ポートライナー三宮駅



▲ ポートライナー南公園駅



▲ ポートライナーみなとじま駅

● 当日用看板・ポスター



▲ 会場案内図



▲ コミュニケーションルーム 案内ポスター



● ICAC KOBE 2015 抄録

(A4・104ページ、1,000部作成)



新聞掲載記事 (順不同)

動物ケアを考える

来月、神戸で国際会議

「第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議2015」が7月19、20両日、神戸市中央区の神戸大学統合研究拠点などで開かれる。動物が幸せに暮らす社会をつくるために、人間がすべきことなどを考えようと開催されている会議

で、同市や県動物愛護センターなどでつくる実行委員会は、参加者を募集している。

19日は午前10時〜午後1時半に、「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ」をテーマにしたシンポジウムや講演があり、小原克博・同志社大教授らが話す。

また、19、20日には、分科シンポジウムとオーラル

読売新聞(6月30日掲載)

セッションを開催。分科シンポジウムでは、災害時の人と動物の同行避難や災害に強い日本型畜産などについて議論する。また、オーラルセッションでは、人が野生動物と共存していく

取り組みなどについて話し合う。

希望者は、ホームページに掲載しているフォームから申し込む。問い合わせは事務局(078・843・8970)へ。

動物との共生を議論

19、20日 神戸で国際会議

への責任を考えよう」と2009年に始まり、2009年に始まり、4回目。

今年は震災から20年の記念大会と位置付け、2日間とも国内外の研究や、獣医師らが参加する。

19日午前10時〜午後1時半は基調シンポジウムを開催。位田隆一・京都大名誉教授と専門家3人が登壇し、震災を教訓に「守るべき

「人と動物の共生をテーマにした」全ての生き物のケアを考える国際会議」が19、20日、神戸市中央区港島南町7の神戸大学総合研究拠点で開かれる。

動物関連の事業を手掛ける団体「Knots(ノッツ)」(神戸市)や同市でつくる実行委員会が主催。阪神・淡路大震災の被災地・神戸で、動物の「命」

「幸せな日常とは何か」とのテーマで話す。

同日午後2時半〜5時半と20日午前10時〜午後5時は、動物を同伴する災害時避難、畜産などが題材の分科シンポジウムや、野生動物との共存などをテーマにした口頭発表がある。

無料。当日参加可。事務局(Knots)内 078・843・8970(皇本万里子)

神戸新聞(7月14日掲載)

講演会

◆神戸全ての生き物のケアを考える国際会議2015 19、20日のいずれも10時、中央区港島南町7丁目の神戸大学統合研究拠点。位田隆一・京

都大名誉教授らが「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ」をテーマに19日に講演をするほか、20日にかけて、人と動物の共通感染症や、災害時のペットの避難についての講演がある。問い合わせは事務局の公益社団法人「Knots(ノ

ッツ)」(078・843・8970)。

舞台

◆神戸新能 第46回公演 8月1日18時半開演(18時開場)、長田区長田町3丁目の長田神社境内特設館

朝日新聞(7月10日 第2兵庫版掲載)

人と動物 ともに幸せを

愛護団体など国際会議 共生の在り方探る

中央区

人と動物の共生について考える「神戸全ての生き物のケアを考える国際会議」が19日、中央区港島南町7の神戸大学統合研究拠点で始まった。宗教や獣医学などさまざまな分野から共生の在り方を探った。

動物の愛護事業などを手掛ける団体「Knots(ノッツ)」や同市でつくる実行委員会が主催し、4回目。

異なるジャンルの専門家による基調シンポジウムは「人と動物の幸せな未来のために守るべき日常」がテーマ。小原克博・同志社大教授は「『私たち』という言葉の境界を人から生物全体に移す意志が必要」と訴えた。

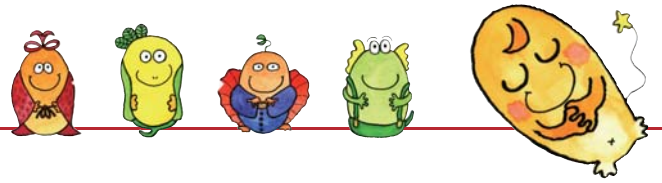
Knotsの富永佳子理事長は「人と動物、それぞれの幸せを互いに支え合ってほしい。その意識変化につながるべうれい」と話した。

20日まで。無料。当日受け付け可。Knots 080・3861・9101 (秋山亮太)



基調シンポジウムの冒頭であいさつするバネリスト＝中央区港島南町7

神戸新聞(7月20日 神戸版掲載)



ホームページ・SNS 等に掲載



◀ 関西発いぬ情報動画サイト「いぬてれび」様のご協力で、約45秒のスポットCMを配信していただきました。
URL:<http://inutv.net/>

● ホームページ

日本ヒルズ・コルゲート株式会社
一般社団法人 兵庫県獣医師会
公益社団法人 京都市獣医師会
公益社団法人 日本獣医学会
動物との共生を考える連絡会
兵庫県動物愛護センター
獣医師広報版

IAHAIO

SCAS(Society for Companion Animal Studies)

京大 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

小原克博 On-Line

(講演内容の動画もあり)

神戸のコンベンション

ハイパーフライト・ジャパン

DOG PAPA

日本フリスビードッグ協会 兵庫支部

Design Office COZY

どうぶつセレモニー- おおぞら

犬の総合情報サイト Dogoo.com

gooddo

イベント情報サイト ことさが

総合情報サイト ペット大好き

dogoo.com

株式会社 緑書房

<http://www.hills.co.jp/>

<http://www.hyogo-vet-assoc.jp/>

<http://www.kyoto-shiju.or.jp/>

<http://www.jsvetsci.jp/>

<http://www.dokyoren.com/>

<http://www.hyogo-douai.sakura.ne.jp/>

<http://www.vets.ne.jp/>

<http://www.iahaio.org/new/>

<http://www.scas.org.uk/>

<http://www.wildlife-science.org/ja/news/>

<http://www.kohara.ac/>

<http://www.kobe-convention.jp/>

<http://www.hyperflitejapan.com/>

<http://papahouse.co.jp/dogpapa/>

Jfa-hyogo.com

<http://www.office-cozy.com/>

<http://oozora.net/blog/?p=4468>

<http://www.dogoo.com/>

<http://gooddo.jp/gd/>

<http://cotosaga.com/event/1512852/>

<http://www.petoffice.co.jp/>

<http://www.dogoo.com/>

<http://www.pet-honpo.com/>

● ブログ・SNS等

Second Cat Life

アザラン日記3

京大 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

一般財団法人 J-HANBS

宮崎大学 獣医学部 公式Facebook

<http://ameblo.jp/secondcatlife/>

<http://gomasuke2006.blog84.fc2.com/blog-entry-908.html>

<https://www.facebook.com/KU.PWS>

<https://www.facebook.com/JHANBSjapan>

https://www.facebook.com/pages/宮崎大学_獣医学部/644613988899315?ref=ts

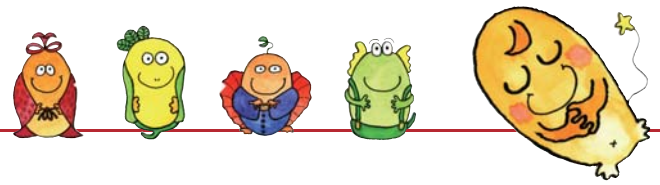
プレスリリース (順不同)

● テレビ・ラジオ・新聞など

NHK 神戸放送局	読売新聞社 大阪本社
関西テレビ放送	読売新聞社 大阪本社 文化・生活部
毎日放送	読売新聞社 神戸総局
テレビ大阪株式会社	産経新聞社
ジェイコム	産経新聞社 大阪本社
株式会社 ベイコミュニケーションズ	神戸新聞社 編集局 社会部
株式会社 映像企画	神戸新聞社
株式会社 フルタイム	神戸新聞社 編集局「青空主義」編集室
大阪放送株式会社 (ラジオ大阪)	日本経済新聞社 大阪本社
ラジオ関西 (AM KOBE)	日本経済新聞社 神戸支社
FM 802	日本農業新聞 大阪支所
KISS-FM	時事通信社 大阪支社
エフエム大阪 (FM OSAKA)	時事通信社 神戸総局
西宮コミュニティ放送株式会社 (さくら FM)	共同通信社 大阪支社 社会部
朝日新聞社 大阪本社	共同通信社 神戸支局
毎日新聞社	共同通信社
毎日新聞社 大阪本社	
毎日新聞社 社会部	
毎日新聞社 神戸支局	
毎日新聞社 阪神支局	

● 雑誌・業界紙・情報誌・タウン誌など

Hanako	株式会社てくてく	trim (トリム)
1 週間	有限会社 ともも	獣医畜産新報
関西 Walker	有限会社 ふんぶん	ペット産業情報新聞 ペット&Life
朝日ファミリーニュース	Dジャーナル (団地ジャーナル)	ペット経営
朝日グリーンファミリー	Meets Regional	PEPPY
朝日新聞暮らしの情報	月刊 KOBE グー	愛犬チャンプ
読売ファミリー	月刊 センター	JPR ペット産業・市場ニュース
リビング東神戸	月刊 たうんらいふ	woof woof (うふうふ)
シティリビング	ビバ! ニュータウン	ペットニュース
シティライフ	ドッグスポーツジャーナル	Japan Pet Press
神戸新聞青空主義	愛犬の友	JPR ペット産業・市場ニュース
日経リヴァイヴ	Wan	有限会社 インターフェイス
暮らしの新聞	猫生活	株式会社 プロメディック
g-time	RETRIEVER	関西版 ぴあ
TOKK	いぬのきもち	S A V V Y
コベルコビジネスサポート株式会社	CAP	



ICAC KOBE 2015 決算報告

総費用 19,249,514 円

<収入> 19,249,514 円

助成金	2,962,475
会議支援金	4,450,000
シンポジウム指定支援金	1,500,000
サポーター寄附金(一般寄附金)	329,768
レセプション寄附	95,000
自己資金	9,912,271

<支出> 19,249,514 円

会場費	2,224,122
同時通訳費	1,528,065
抄録翻訳費	597,500
印刷製本費(抄録/パンフレット/ポスター類)	2,193,490
記録集制作費(翻訳料含む)	2,182,200
国内座長演者 旅費交通費	1,271,220
座長演者 謝礼	30,000
海外演者 旅費交通費	453,063
広報費(ウェブ制作費含む)	1,301,737
事務局旅費交通費	481,116
事務局人件費	6,000,000
通信費	456,038
消耗品費	431,890
会議費	20,000
雑費	79,073

2017年にお会いしましょう!

第5回 神戸 全ての生き物のケアを 考える国際会議 — ICAC KOBE 2017



アクア
(Akua)
神



プカ・コモ
(puka komo)
扉



ハウオリ
(Hau'oli)
幸せ



マハロ
(mahalo)
感謝



クレアナ
(Kule.ana)
責任

ICAC KOBE 事務局

公益社団法人 Knots

〒658-0047 兵庫県神戸市東灘区御影3丁目2番11-20
TEL 078-843-8970 (月~金曜日 9:00 ~ 17:00)
FAX 050-3730-0738 (国内線用)